

漁連だより

2025

6・7

No.357



第99回(通常第77回)総会の様子

CONTENTS/目次

巻頭

TOPICS

本会通常総会開催

P1~

(株)オークワ 九州・沖縄フェアを開催……………	P3
長崎県かん水魚類養殖協議会 令和7年度定期総代会 開催 ……	P4
令和6年度長崎県定置漁業協会専長研修会を開催……………	P5
第37回意見発表大会及び第71回定期総会を開催 ……………	P6

「第30回全国青年・女性漁業者交流大会」……………	P7
新組合長のご紹介……………	P9
募金ありがとうございます……………	P9
有害赤潮対策について……………	P10

本会通常総会開催

総務指導部 総務課

さる令和7年6月12日（木）第99回（通常第77回）総会を開催し、令和6年度決算、令和7年度事業計画等について協議し、全議案とも原案通り承認されました。

漁協会館において午前10時より開催された総会は、正会員65会員中63会員が出席し、高平会長の開会挨拶のあと、来賓として大石知事よりご祝辞をいただきました。

議長には、長崎市茂木漁協の小林組合長が選出され、全議案は原案通り承認されました。

【知事祝辞】

本県の水産業は地域経済を支える基幹産業であり、令和5年の生産額は魚価の好調もあり

過去20年で最高の1,238億円となりました。一方で、燃油や配合飼料の高騰、漁業就業者の減少など、課題も見られます。

こうした中、県では「未来大国」をキャッチフレーズに「新しい長崎県づくりのビジョン」を作成しており、重点分野の一つに「食」を掲げています。「THEワールドクラス世界が惚れこむ食体験」をテーマに水産業も一つの軸として「食のショーケース」の実現を皆様と進めてまいります。

また、今年度は県の総合計画と水産業振興基本計画の最終年度を迎えます。誰もがチャレンジできる環境づくりと儲かる水産業のための環境整備に向け、小泉農林水産大臣に要望を行ったところであり、国の力を借りながら本県水産業の更なる発展と活性化を実現していきたいと考えております。併せて、県漁連が行う水産物

の付加価値向上や販売力強化への取り組みについても可能な限りサポートしていきたいと考えております。こうした取り組みを推進するためには、様々な皆様が思いを一つに連携することが必要であると考えております。漁村の中核組織として漁協の果たす役割は今後ますます重要になってくるものと思いますので、ぜひ皆様におかれましては、漁協の経営基盤強化、組織再編など、組合員の負託に応える漁協づくりに、より一層のご尽力を賜りますようお願いを申し上げます。

（紙面の関係上、一部割愛させていただいております。）

【高平会長挨拶】

水産業を取り巻く環境は依然として厳しく、海洋環境の急激な変化に伴う漁業資源への影響に加え、水揚量の減少や燃油・資材価格の高騰、さらに赤潮の発生など、漁業経営にとって深刻な課題が続いております。

このような状況のもと、本会では、行政や関係機関と連携し、漁業者の経営安定と地域水産業の活性化に向けて、様々な取り組みを進めて

おります。

特に本年は、「国際協同組合年」として、協同組合の社会的意義や貢献が改めて国際的に注目される年でもあります。本会としまして、「相互扶助」といった協同組合の理念を原点に、漁業の振興と地域社会の持続可能な発展を目指し取り組んでまいります。

令和6年度事業報告

【決算の概要】

令和6年度の取扱高については、主要魚種のイカ類やブリ類の不漁が影響し、計画259億円に対し計画達成率90%の232億円となりました。

購買事業 計画比92%

石油類については、5月以降のイカ釣り漁の不漁により、対馬をはじめ各地で出漁回数が減少し計画を下回る結果となりました。資材については、主力である包装資材はイカ類の不漁の影響で取り扱いが減少しましたが、漁網や養殖資材の取り扱いが伸びたことで、計画並みの実績となりました。

販売事業 計画比80%

受託鮮魚については、アマダイ・イサキ・シイラなどの水揚げは順調に推移したものの、主力であるイカ類・ブリ類の水揚げが少なかったため計画を下回りました。

煮干については、主力のカタクチイワシの水揚げが少なく、マイワシについても前年に比べて約3割の減少となり計画を下回りました。

製氷・冷凍・冷販事業 計画比103%

製氷については、サバやイワシなどが豊漁となり、小型旋網漁船の取扱いは増加しましたが、悪天候が多かったことや、資源管理のための休漁により操業日数が減少したため、全体の取扱量は計画通りの実績となりました。

冷凍・冷蔵・保管については、相場の高騰と台風や時化等の影響で水揚げが少なかったため取り扱いが減少し計画を下回りました。

冷凍販売については、餌料用としてイワシ・サバを中心に前浜での買付を行い、加工原料としてタイ・イサキ・冷凍ブリ・冷凍アジの販売を実施しました。しかし、1月以降の急激な水温低下により餌料販売が落ち込み計画を下回りました。

営業については、量販店等に対して養殖ブリ・養殖マグロを中心に取り扱い、生協向けには塩サバ・シメサバに加え、みりん干し商品の定番

化を目指して推進しました。また、新たな取り組みとして輸出向けにシイラファイル・キンメダイファイル等を販売し計画を上回りました。

加工事業 計画比102%

冷凍加工については、営業課と連携し、生協や量販店向けに天然ブリ・ケンサキイカーQF・養殖ブリファイル等の加工を行いました。今年度は新たに生食用の冷凍加工品にチャレンジしており、生協向けにイサキ刺身ファイル等の販売を実施しました。製品加工については、生協や学校給食向けに煮干やわかめを主力商品として継続的に販売しました。原料価格の高騰やコスト増加に伴い商品価格の改定を行ったものの、順調な販売が続く計画を上回りました。

令和7年度事業計画

【全般的事業概要】

指導部門・経済部門の両面から積極的かつ総合的に事業を展開するとともに、特に買取販売を強化し、販売の拡大および新たな販路の開拓に努めてまいります。将来を見据えた健全な事業運営を目指し、総取扱高250億円の達成に向けて、職員一丸となって取り組んでまいります。

(株)オークワ 九州・沖縄フェアを開催

事業推進部 営業課

さる7月5日から6日において、(株)オークワにて九州・沖縄フェアが開催され、県内各地の旬の鮮魚や加工品を中心に販売しました。

(株)オークワは和歌山県を中心に、東海地方から関西地方にかけて約150店舗を展開しているチェーンストアです。「九州・沖縄フェア」は毎年恒例のイベントとして、夏と冬の年2回開催されており、県内各地の鮮魚・養殖魚のほか、各種加工品を販売しております。

今回のフェアでは、鮮魚については「マジ」「スルメイカ」「イサキ」等の主要魚種をはじめ、色とりどりの多種多様な魚が並べられ丸体、切身のほか、刺身や寿司等、様々な形態で販売され大変好評でした。

加工品については、フェアならではの商品として長崎杉蒲の「イカ入りカツ」「えびカツ」等のカツシリーズを展開し、大変好評でした。

また、例年フェア前の現地での買付時には天候により集荷が困難になる状況が続いていたことから、商品の安定供給お

よび店舗側の業務負担の軽減を目的に、今回新たにアルコール凍結品4魚種（タチウオ・アカカマス・イシダイ・ハマフエキダイ）を寿司ネタ用として出荷しました。

今後の取組みとしては、鮮魚をはじめ加工品においても消費者および店舗側のニーズに応じた商品提案を行い、長崎県の水産物の強みを活かした魅力あるフェアの開催に努めて参ります。



売り場の様子



鮮魚売り場の様子



長崎県かん水魚類養殖協議会 令和7年度定期総代会 開催

長崎県かん水魚類養殖協議会

さる5月28日、長崎県漁協会館において、「長崎県かん水魚類養殖協議会 令和7年度定期総代会」を開催し、総代12名が出席しました。

当協議会は、適正養殖業者認定制度を活用し、長崎県産養殖魚の安全・安心を発信するとともに、生産基盤体制の整備により蓄積された養殖技術の継承と魚類養殖の経営安定を図ることを目的に事業を推進しています。今回の定期総代会では左記について協議され、全議案原案通り承認されました。

- (1) 令和6年度業務報告及び収支決算承認について
 - (2) 令和7年度事業計画及び収支予算(案)承認について
 - (3) 任期満了に伴う役員改選について
 - (4) モジヤコ採捕状況について
 - (5) 漁場改善計画の見直しについて
 - (6) 赤潮対策ガイドラインについて
- 第3号議案では、役員の任期満了により、各支部より総代が選任され、下記の通り決定しました。任期は3年間で令和10年までとなっています。

(新役員)

会長	平野 重美
副会長	宮崎 義則
総代	山中 兵恵
井上 幸宣	
田淵 輝明	
山口 和幸	
高平 真二	
大久保金政	
増田 克郎	
畑村 信昭	
阿比留和秀	
監事	鳥越 一男
入江 徳成	

また、平野会長より全海水の活動として、令和7年5月13日開催の「第1回全海水役員会」で協議した魚類養殖の経営安定対策等に関する事項について、翌14日に開催された自民党養殖漁業懇話会において、左記5項目の要望を行った旨の報告がありました。

- (1) プリ及びカンパチ種苗安定確保に向けた人工種苗の生産体制及び育種体制の整備・構築への継続的な支援



総代会の様子

- (2) 急激な環境変化(高水温・赤潮等)とそれに伴う疾病等への対応
 - (3) インフレや関税等情勢変化を踏まえた経営安定対策について
 - (4) 配合飼料高騰に対する緊急的な措置(漁業経営セーフティネット構築事業の拡充等)
 - (5) 生餌安定確保に対する措置(養殖用生餌供給安定対策支援事業の拡充等)
- 最後に県水産試験場の担当者より、2年連続発生している赤潮について、今年も高温・高水温が予想されることから、注意喚起の説明が行われました。

令和6年度長崎県定置漁業協会 専長研修会を開催

長崎県定置漁業協会

さる5月19日から21日にかけて
鹿児島県にて、「長崎県定置漁業
協会専長研修会」を開催しました。

研修会には、長崎県定置漁業協会会員、賛助会員含め計19名が参加しました。初日に鹿児島市へ移動後、懇親会を開催し、2日目に鹿児島市中央卸売市場魚類市場を視察後、アマモ造成活動の研修、3日目に折田水産の漁場視察を行いました。

同市場は、昭和10年に鹿児島市によって設立され、卸売業者（大卸）は鹿児島県漁連と九州中央魚市（株）の2業者となっています。令和3年に高度衛生管理場としてリニューアルされ、主にカツオ類、マグロ類が中心に水揚げされています。市場内には、空調設備が施されている他、高床式、フラット式があり、近海もの、養殖もの、離島もの等に分けて競りが行われています。視察時にはシマアジやマダイ、キビナゴなど様々な魚種の競りが行われていました。また、市場内の仲卸では、キハダマグロを捌いている風景が多く見受けられました。

市場視察後は、本県定置漁業協会が重点目標に掲げているブルーカーボン等の取り組み事例として、アマモ造成の研修を行いました。初めに全国漁青連顧問川畑友和氏より講義が行われ、平成18年より山川町漁協で取り組まれ

ているアマモ造成活動の内容とアマモ造成の1年の流れについて説明を受けました。アマモ造成活動の1年の流れは、5月に採取したアマモをネットに入れ海中に保管、9月に種を採取し、10月にヤシの木の繊維を使ったマットの中に植え込み、対象地区へ設置を行う流れとの事でした。講義後には、鹿児島市内の与次郎ヶ浜長水路で実際にアマモ種採取の見学を行いました。種採取には、川畑氏を始め海辺つくり研究会の木村尚氏、鹿児島大学の学生や本会専長委員の平山専長も一緒に参加されており、地元のメディアからも取材を受けていました。

3日目の漁場視察では、南さつま市野間池にて折田水産の七瀬漁場を視察しました。折田水産は、家族3人で2漁場（七瀬漁場、小島漁場（指宿市））を操業しており、七瀬漁場は4年ほど前に新たな漁場として操業されているとの事でした。例年、この時期はヤイトガツオやメチカなどのカツオ類が入網しているとの事でしたが、当日は、生憎の大雨で大漁とはいかず、シマアジやトビウオ、フエダイ、アジ・サバ類、キビナゴなど多種類の魚が入網していました。

今回の研修会では、桜島の火山活動のニュースや九州南部の梅雨入り宣言もあり、開催できるか不安でしたが、無事全行程終了することが出来ました。今までは、魚を獲る事、鮮度の維持や

漁具の改良等を中心に研修を行っていましたが、今後は磯焼け対策といった海の環境保全活動にも取り組んでいきたいと考えております。
当協会では、長崎県内と県外を交互に毎年研修会を実施しておりますので、興味を持たれた関係者や定置網を営まれている組合員の方は、事務局（購買課）までご連絡下さい。



視察研修の様子

第37回意見発表大会及び 第71回定期総会を開催

長崎県漁協青壮年部連合会



表彰式の様子
左から黒岩氏、平田氏、長嶺氏

さる7月8日、長崎県漁協会館にて第37回意見発表大会及び第71回定期総会を開催し、青壮年部員をはじめ行政や系統団体等、約70名が参加しました。

○第37回意見発表大会

本大会は漁協青壮年部の日頃の活動、漁業体験を通じて感じ得た漁業青壮年の声を掘り起こし、青壮年部員間の融和と団結を図るとともに、今後の組織活動のエネルギーとすることを目的に開催しており、コロナ禍を経て令和元年以来の開催となりました。今回は、3名の青壮年部員が現状や展望に対して、自らの思いを熱く発表しました。開会にあたり、主催者を代表して牧島会長が挨拶した後、長崎県漁業協同組合連合会田代専務理事より祝辞が述べられ、意見発表に入りました。

審査の結果、「引きこもりだった俺はもういない」と題して発表した中野漁協青年部の長嶺博一氏が長崎県知事賞を受賞しました。

◇長崎県知事賞

「引きこもりだった俺はもういない」
中野漁協青年部 長嶺 博一氏

◇優秀賞

「失敗を恐れず仲間と一緒に一歩前へ」
長崎市みなと漁協青壮年部会 深堀支所
平田 浩太郎氏

◇優良賞

「まぐろ養殖に懸ける思い」
美津島町西海漁協青壮年協議会
黒岩 将伍氏

○第71回定期総会

定期総会では、牧島会長の主催者挨拶の後、長崎県水産部吉田部長（代読：中尾次長）より祝辞が述べられ、議案に入りしました。

議長には、大島村漁協青壮年部の田上正人氏が選任され、全議案とも原案通り承認されました。

【第1号議案】令和6年度活動報告及び収支予算決算承認の件

【第2号議案】令和7年度活動計画（案）及び収支予算（案）、令和7年度会費の賦課及び徴収の時期・方法の件

【第3号議案】役員改選の件

【第4号議案】その他の件

第3号議案の役員改選において、新役員候補者が承認され、会長・副会長・書記長・監事について互選を行い、次のとおり決定しました。

◇新役員体制◇

会長	與賀田 祐（県南二区）
副会長	稲田 耕造（県南一区）
書記長	溝口 誠義（北松）
監事	小川 龍喜（県南二区）
委員	大石 大誠（平戸）
顧問	立川 容介（対馬）
顧問	田島 巧（北松）
顧問	山口 慎平（平戸）
顧問	川崎 哲典（吉岐）
顧問	牧島 裕（県南二区）



就任挨拶を行う與賀田新会長

「第30回全国青年・女性漁業者交流大会」

長崎県漁協青壮年部連合会

本記事では、前号に引き続き、標記交流大会において発表された、吉浦祐大氏の取組について紹介します。

●第5分科会(多面的機能・環境保全部門)

九十九島漁業協同組合 鹿町青壮年部

吉浦 祐大 氏

「未来につなげよう俺たちの青年部活動」

【取組概要】

1. 地域の概要

私たちの住んでいる佐世保市鹿町町は、九州北西部の長崎県佐世保市の北西部に位置し、大小208の離島と複雑な入り江を有する「西海国立公園九十九島」内にあり、西側は五島灘に面している。また、毎年多くの観光客が訪れる「ハウステンボス」や、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産として世界遺産に登録された「黒島の集落」などが存在し、豊かな自然環境、文化施設、観光資源にも恵まれている。

2. 漁業の概要

私たちが所属する九十九島漁業協同

組合は、平成17年12月に小佐々町、鹿町町、田平町の3漁協が合併して誕生した。令和5年度の漁協全体の組合員数は正准合わせて514名、販売取扱高は30億200万円、地区内水揚げ数量は76,524t、同水揚げ金額は37億1,000万円となっており、県内でも有数の大きな漁協の1つである。

漁業種類としては地区内水揚げ数量で99%、水揚げ金額で72%を占めているまき網漁業のほか、ごち網漁業や採介藻漁業が行われており、まき網のカタクチイワシを使用した煮干し加工業なども盛んな地域である。また、多くの島や入り江など複雑な地形を生かしたトラフグ、マダイ、カワハギなど魚類養殖やカキ養殖などが盛んである。

3. 研究グループの組織と運営

九十九島漁協青壮年部は、漁協合併に伴い、小佐々町、鹿町町の2地区の青壮年部が合併して誕生したが、合併後も小佐々支部と鹿町支部に別れて活動を行っている。

私たちが所属している鹿町支部は旧鹿

町漁協時代の昭和49年に結成され、40歳未満の漁業者で構成されている。令和6年度の部員数は26名で、まき網従事者が22名で全体の85%を占めている。年齢構成は20歳代が15名(58%)、30歳代が8名(31%)となっている。当該青壮年部は、後述する藻場の保全活動を青壮年部の中心的な活動として位置づけ、従事している漁業の合間を縫って地域に貢献する活動を行っている。

4. 研究・実践活動の取組課題選定の動機

平成の初期あたりからアワビ・サザエなど磯根資源の漁獲量が減少し始めた。漁獲量の減少と時を同じくして地元の地先沿岸に海藻がなくなる磯焼けが目立つようになり、私たちは磯焼けが漁獲量減少の原因ではないかと考えた。海藻類の消失に危機感を感じるようになったことから、磯焼けを食い止め、藻場の保全をめざすことを目的に、平成8年頃から漁協青壮年部鹿町支部として藻場保全活動に取組むこととした。

また、平成21年度からの環境・生態系保全対策活動支援事業、平成25年度から

の水産多面的機能発揮対策事業などの国の支援事業を活用し、佐世保市や県とも連携を取りながら小佐々支部青年部とともに「北九十九島地域活動組織」を立ち上げ、藻場保全の取組を積極的に行っていくこととした。

5. 研究・実践活動の状況及び成果

自主的な活動を始めた当初は磯焼け防止や藻場保全のため青壮年部としてどのような活動をするればよいかよくわからなかった。そのため藻場保全に関する資料を集め、専門家や関係機関の協力を得ながら手探りで以下の活動を行った。

- ・保護区域の設定、ウニ類駆除、藻場モニタリングの実施
- ・母藻設置、海藻種苗の投入
- ・魚類種苗放流と滞留状況調査
- ・アマモの播種と小学生との協同作業
- ・佐世保市のブルーカーボンプロジェクトへの協力

6. 波及効果

私たち青壮年部は従来からの佐世保市や県の助言に加え、サポート専門家のアドバイスを受けて自分たちの感覚と工夫で藻場保全活動が続けてきた。年度により効果が見られたもの

もあったが、それぞれの取組についてどのような方法が正しいのか分からず、絶えず試行錯誤を繰り返してきた。北九十九島地域活動組織は平成25年度から水産多面的機能発揮対策事業の採択を受けて藻場保全にかかる様々な取組を、同じ組織内のもう一つの小佐々青年部のグループと連携を密にし、情報交換を行いながら長年にわたり実施してきた。

一方、県北地区には鹿町青壮年部以外にも3つの青壮年部組織があり、いずれも藻場の保全活動を積極的に実施している。同じ青壮年部同士による情報交換や交流が進み磯焼けの進行に対する危機意識を共有するとともに、お互い励まし合いながら藻場保全活動に取組んでいけたらと願うばかりである。

7. 今後の課題や計画と問題点

藻場の保全活動は青壮年部の中心的活動として今後も継続していく予定であるが、最大の課題は加入する人が少なくなったことと、活動に参加する部員が減ってきたことである。現在部員は26名で、30歳代が8名で31%を占めている。5年後、10年後を考えた場合、活動を存続していけるか非常に心配である。

私たちの青壮年部員は大半がまき網従事者で

構成されている。そのため活動は月3日間の月夜間（年間で約36日間）に限られる。まき網従事者にとって月夜間は基本的に休日であり、本来は家族や自分のための時間であるため、青壮年部活動に積極的でない部員も少なからず存在している。

九十九島漁協鹿町支所所属の中小型まき網漁船は8船団で乗組員は約140名。うち青壮年部員は22名が従事。このほか、特定技能外国人材も16名在籍している。今後は、貴重な地域の漁業就労者でもある外国人材の青年部活動への参画を検討するとともに、地域内の他の漁業者や地域住民などに対し、藻場保全の取組の発信や親睦のためのイベントなどの企画により加入促進を図っていきたいと考えている。

また、今年再開する小学生との取組を今後も継続させ、地元のために日々努力する青壮年部員たちの姿を子どもたちへ見せていくことで、将来の担い手の育成にも繋げていきたい。

更には、貴重な月夜間に活動する青壮年部員自身にとっても有意義な時間となるよう、部員が参加したいと思える活動の検討や、藻場の保全活動においては少ない労力・時間でも効果をあげられる手法や作業の効率性を日々考え、実践しながら取組んでいきたい。

新組合長のご紹介

● 瀬川漁業協同組合



伊東 厚
代表理事組合長

● 新魚目町漁業協同組合



今崎 定幸
代表理事組合長

● 有川町漁業協同組合



石田 和広
代表理事組合長

● 宇久小値賀漁業協同組合



濱田 利弘
代表理事組合長

● 豊玉町漁業協同組合



中島 重幸
代表理事組合長

募金ありがとうございます

(公財) 漁船海難遺児育英会

(公財) 漁船海難遺児育英会は、漁船の海難事故(転覆・衝突等)や海中転落等の事故により、親を亡くされた遺児の経済的・精神的援助を目的に設立され、幼児から小中高生・大学生に学資事業を行っています。

しかし、教育費の高騰により資金的にはまだ十分とはいえませんが、今後とも皆様の温かいご協力をよろしくお願いいたします。

6月には次の方々からご寄付をいただきましたので、ここに厚くお礼申し上げますとともに、紙上にお名前を掲載させていただきます。(敬称略)

【団体】

- ▼長崎大学 鴻洋祭実行委員
- ▼なぎさ会(漁連OB会)
- ▼上五島町漁協

【個人】

- ▼三輪あい子



長崎大学 鴻洋祭実行委員

有害赤潮対策について

長崎県総合水産試験場
環境養殖技術開発センター 漁場環境科

はじめに

令和6年は夏季を中心にシャットネラとカレニア赤潮が県内各地で発生しました。その結果、漁業被害は約16億円となり、令和5年の過去最高被害額（11億円）を更新しました。

これから夏に向けて赤潮発生を招く環境が整いやすくなり、漁業被害が心配されます。

そこで、赤潮発生に備え、近年の赤潮の発生状況等と漁業被害を軽減するための赤潮対策について紹介します。

有害赤潮5種の赤潮発生・被害件数等

総合水産試験場（以下、水試と記す）では、県内で発生する赤潮の原因プランクトンのうち、魚類や貝類等にへい死被害を与える『有害赤潮プランクトン』10種類について、赤潮情報（注意報、警報）の発信基準を定めています。

(<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/shigoto-sangyo/suisangho/suisan-shiken-suishi-nu-su/suisan-shiken-suishi-nu-su-akashioyouhounohatushin/>)

このうち、図1に示す「シャットネラ」、「カレニア」、「コクロディニウム」、「ヘテロカプサ」、「ヘテロシグマ」が過去に赤潮被害をもたらした主な有害赤潮5種です。これら5種の過

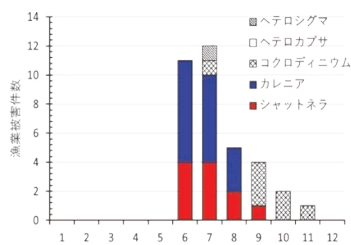


図4. 月別の赤潮被害発生件数（種類別）

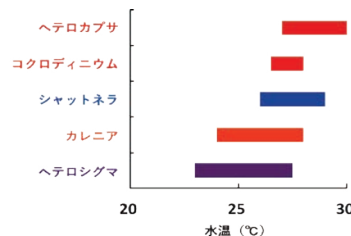


図5. 有害赤潮5種の増えやすい水温の範囲

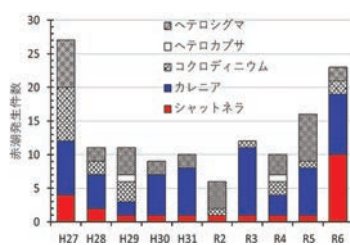


図2. 有害赤潮の発生件数の推移（種類別）

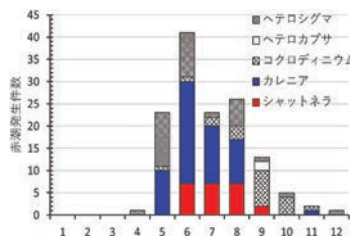


図3. 月別の有害赤潮発生件数（H27～R6）



図1. 有害赤潮プランクトンの顕微鏡写真

に17件、令和6年には23件に増加しています(図2)。

去10年間に於ける年別の発生件数、月別の発生件数および漁業被害件数を図2、図3、図4に示します。

被害件数を図2、図3に示します。年別発生件数は、平成27年の27件をピークに、その後、6、12件に減少しまし

月別の発生件数は5月～9月頃に多く、漁業被害件数では6月～9月頃に多いことが分かります(図3、4)。

次に、有害赤潮5種が増えやすい水温について、室内実験で調べた結果を紹介します。これら5種は、種によって差はありますが、水温が概ね23～30℃の範囲で活発に増殖します(図5)。実際に現場で赤潮が発生しやすい水温となる時期は、6～10月頃にあたります。特に、梅雨や台風の時節は降水に伴う栄養塩の供給が増えることで、赤潮がより発生しやすくなります。

このほか、小潮時の滞留や一定方向の風による集積、あるいは、他海域から赤潮水塊が潮流で流入すること等でも赤潮は形成されることが知られています。

赤潮対策

漁業被害の軽減には、有害赤潮プランクトンの出現を早期に把握すること、的確な対策を迅速に講じることが重要です。次に5つの対策を紹介します。

① 赤潮原因プランクトンの早期識別

水温が23℃を超えている場合には、海の色や養殖魚の様子が少しでもおかしいと思ったら、海水を採取し、顕微鏡で観察してプランクトンの種類を判別してください。または、最寄りの水産普及指導センターもしくは水試に調査を依頼するか、採取した海水を持ち込んでください。

県は赤潮発生水域の関係市町および漁協等と協力して調査を実施し、その結果を赤潮速報と

して関係機関に送付するとともに、県ホームページに掲載しています。

(<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/shigoto-sangyo/suisangho/suisan-shiken-suishi-nu-su/suisan-shiken-suishi-nu-su-akashiosokuhou/>)

また、国立研究開発法人 水産研究・教育機構（水産技術研究所）が運用をしている「赤潮分布情報」(<https://akashiwo.frago.jp/>)では、有明海や伊万里湾等、隣接している他県の赤潮情報等もパソコンやスマートフォンで見ることが可能ですので、赤潮監視の参考にしてください。

②有害プランクトンの移流予測

近年は、赤潮化したプランクトンが海流によって移動することで赤潮が広域化することが問題となっています。令和6年に長崎県内で大きな被害を出した赤潮は、有害プランクトンが海流によって各地へ移動し、増殖・集積の条件が整うことで県南部から北部にかけて各海域で赤潮化したと考えられています。

水試では、ある海域で発生した有害赤潮のプランクトンがその後、いつ、どこへ移動するかといった移流予測に大学と共同研究で取り組んでいます。移流予測では、モニタリングで得られたデータをもとに、数日～1週間先程度の有害赤潮プランクトンの分布状況を推定します。この予測した情報を用いて、水試から現場へ注意喚起をしていきます。

③発生漁場における養殖魚への餌止め等

魚類は、餌を消化するために大量の酸素を消費します。赤潮発生時に養殖魚に餌を与えると、魚は酸素欠乏になり、赤潮のダメージを受けや

すくなります。また、餌の残滓等はプランクトンの栄養源にもなり、赤潮の長期化につながります。このため、赤潮発生時には餌止めを励行してください。

また、魚が罹病していると、酸素欠乏に弱くなりますので、赤潮発生時期の前に魚病の対応を済ませておいてください。

④赤潮駆除

シャットネラ、カレニア、コクロディニウム等の有害赤潮には、モンモリロナイト系粘土（入来モンモリ等）を海水に溶かして散布することで赤潮プランクトンの細胞が崩壊、凝集し、駆除ができます。赤潮が広がっていない発生初期に散布することで、被害の防止につながった例があります。粘土散布については、鹿児島県水産技術開発センター作成の「改良粘土を用いた赤潮被害防止マニュアル」(<https://kagoshima.suigijp/akashio/newHP/>)が公表されています。

⑤赤潮からの回避

筏等の養殖施設を移動（緊急移設）する場合は、県漁業振興課もしくは関係振興局水産課へ連絡してください。移動に際しては、赤潮の中を通らないことはもとより、養殖魚が輸送中にストレスを受けないよう、魚の動きや移動の速度等に充分配慮する必要があります。

このほか、生け簀を移動せずに実施できる対策として、足し網があります。足し網は、通常の養殖網に網を継ぎ足して底網深度を延ばすことで、養殖魚が赤潮から回避できるスペースを確保する方法です。水試では、この足し網の被害軽減効果についても調べているところです。

以上が対策についての紹介になりますが、過

去に大きな被害があった海域については『赤潮対策ガイドライン』が策定されており、関係機関と連携して随時見直しを行っています。

(<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/shigoto-sangyo/suisangho/suisan-shiken-suishi-nu-su/suisan-shiken-suishi-nu-su-akashiotaisakugaidorainn/>)

おわりに

赤潮プランクトンの顕微鏡観察、自主監視体制の事例紹介等、赤潮に関する研修等のご要望やご不明な点等がございましたら、最寄りの水産普及指導センターまたは水試にご連絡ください。

（担当 平江 想）

県関係機関の連絡先

漁業振興課	095-895-2825	（漁業調整担当直通）
水産加工流通課	095-895-2871	（養殖・輸出振興担当直通）
総合水産試験場	095-850-6316	（漁業環境科直通）
水産業普及指導センター		
県央	095-850-6371	
県北	0956-25-5902	（水産課直通）
県南	0957-64-0487	
五島	0959-72-2254	（水産課直通）
上五島	0959-52-3747	
壱岐	0920-48-5212	（水産課直通）
対馬	0920-52-0058	

漁船海難月報

令和7年7月号 第七管区海上保安本部
第260号 交通部安全対策課 発行



令和7年6月発生
七管内漁船海難 5隻

令和7年6月末現在 累計 29隻
漁船海難発生隻数は前年に比べ1隻増加

漁船海難隻数 (速報値)			県別内訳		
				6月	令和7年累計
衝突	★	4	山口県	2	3(1)
運航不能 (無人漂流)	◆	1	福岡県	1	7(5)
			佐賀県	0	1(3)
			長崎県	2	18(15)
			大分県	0	0(4)
合計 5隻			合計	5隻	29隻(28隻)
死亡、行方不明者: 0名					()は昨年同月

累計死亡・行方不明者数 1名(令和7年6末日現在)

6月の漁船海難発生地点



この夏も**猛烈な暑さ**となる見込みです！

熱中症に嚴重注意!!

暑さに負けないよう、しっかり対策しよう

こまめな水分補給



喉が渇いていなくても
水分をこまめに摂ろう。

塩分補給も忘れずに



汗で失われてしまう塩分も
こまめに補給しよう。

無理せず操業



あまり無理せずこまめに休憩し
て操業する等の配慮をしよう。
乗組員同士でも体調管理を。

通気性の良い服装



作業性が良く、風通しが良い、
汗が乾きやすい服装を選ぼう。

クーリンググッズの使用



ネッククーラーや氷のう
等を使って作業中でもし
っかりクールに！

規則正しい生活



バランスの良い食事を心がけ、睡眠
もしっかりととろう。体調不良時は
熱中症リスクが高まる。

↓熱中症を防ぐために、より詳しい情報はこちらのサイトをご覧ください↓

[厚生労働省 熱中症予防のための情報・資料サイト](#)



[日本気象協会推進「熱中症ゼロへ」プロジェクト公式サイト](#)

【<https://www.netsuzero.jp/>】



インターネットショッピングサイト
 長崎県の安全・安心で新鮮な鮮魚・加工品を
 インターネットを通じてダイレクトに食卓へお届けします!!
 美味しいものはここにある

長崎漁連
 ウェブショッピング JF長崎漁連

<https://www.jf-nagasaki.com>

**長崎自慢の海産物を
ネットでお取り寄せ!**

長崎漁連 検索

JF 長崎県漁業協同組合連合会

⚠ 漁船の衝突事故が多発しています
衝突事故に注意

他船との衝突事故が最多

漁船事故種類別割合
 (令和2～令和6年)
 2,246隻

衝突	25% (564隻)
無人漂流	14% (306隻)
他船	10% (229隻)
転覆	10% (217隻)
推進器・舵故障	8% (184隻)
火災	8% (173隻)
その他	25% (573隻)

衝突時の乗船人員
2人乗り以下が8割

衝突時の乗船人員
 (令和2～令和6年)
 564隻

1人	55% (311隻)
2人	22% (124隻)
その他	23% (129隻)

衝突の原因
見張り不十分が8割

衝突原因別割合
 (令和2～令和6年)
 564隻

見張り不十分	76% (424隻)
操縦不慣習	12% (70隻)
不可抗力など	6% (34隻)
船員誤認	6% (34隻)

水産庁 海上保安庁

水産庁 〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1
 TEL: 03-3592-0731
 海上保安庁 〒100-8976 東京都千代田区霞が関2-1-3
 TEL: 03-3591-6361

あっぱれ
 船体塗装・屋根塗装なら
山二におまかせください!!

船舶塗料の専門店
 CND 中国塗料株式会社 代理店 山二塗料です

山二塗料産業株式会社
 〒852-0001 長崎市山二町1-1
 ☎ 0956-31-8020
 長崎支店 ☎ 095-837-8020
 鹿児島支店 ☎ 099-260-0600

**まごころで
大きく包む**
 パッケージ資材全般・包装機械

株式会社 丸本

本社・営業部/〒851-0134 長崎市田中町593-1
 ☎ 095-837-8205 FAX 095-837-8208
 工場・営業所/福岡工場・熊本工場・福岡営業所

**定置網周辺の潮流・水温
リアルタイム計測**

主な仕様
 フロート径: Φ100cm
 フロート材料: 厚膜ウレタンコーティング樹脂製
 筐体材質: 耐食アルミニウム合金
 全備質量: 約52kg (蓄電池含む)
 適用電源: 鉛蓄電池 (12V80AH)
 通信機器: 携帯電話 (ドコモ、ソフトバンク、MVNO)
 計測センサー: 潮流 (流向流速)、水温

株式会社ゼニライトバイ
 九州営業所 TEL: 092-674-0001 FAX: 092-674-0002

一般作業用長靴
ハイビジョン (23.0cm～28.0cm)

合羽
シーガル201

シバタ工業株式会社
 長崎出張所 〒852-8124 長崎市辻町3-40 平山ビル1F
 TEL: 095-844-1210

FURUNO
 定置網モニタリングシステム

漁視ネット
 型式 **FMS-100**

古野電気株式会社
 長崎営業所 095-861-3261 福岡営業所 092-711-1777 佐世保営業所 0956-48-4440

Printing&Planning
SEIBUNSHA
 (有)正文社印刷所

〒850-0874 長崎市魚の町6番6号
 TEL (095) 826-0211
 FAX (095) 825-0538
 URL <https://seibunsha.jp>

貝殻 リサイクル魚礁



JFシェルナース



魚礁 (6.0 型)



イサキ(対馬市)



ヒラマサ(西海市)



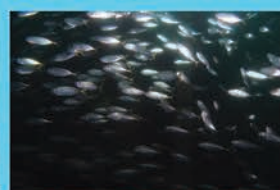
メバル(佐世保市)



イセエビ(新上五島町)



マダイ(対馬市)



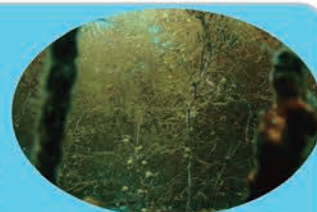
マアジ(南島原市)

保護礁 (プラス 1.0 型)



漁業者による
種苗の準備

取り付けた海藻は
順調に
生長しています！



設置10年以上経過
ホンダワラ類(長崎市)



2カ月後(長崎市)



1年2カ月後(対馬市)



1年5カ月後(平戸市)

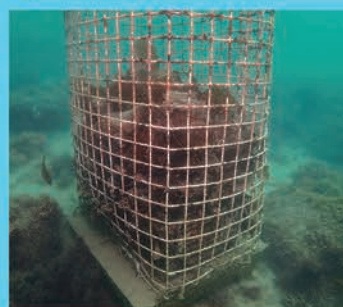
漁師の考えた小型ブロック

かいそう
貝藻くん



60cm×55cm×45cm、重量60kg

長崎県内で1,156基(全国 約12,573基)
ご採用いただいております(2013~2024.4.1現在)



クロメ生育状況



下の隙間に隠れるクエ

お問合せ JF長崎漁連 購販部 購買課 TEL 095-829-2420

開発・製造 海洋建設株式会社

JF
JFグループ

JF
JFグループ

着けよう、
あなたが家族のことを
思うなら。

めざせ！
海難事故
ゼロ

自分の命は自分で守る！
わずらわしさと窮屈さから解放！
ベスト感覚で着れる
ファッションなライフジャケット
常時着用型救命胴衣（自動膨張式）

膨張時

反射リフレクター
エア入補充パドル
ホイッスル
炭酸ガスボンベ
手動レバー

お問い合わせは、長崎県漁連 購買課まで TEL 095-829-2418～2420

「ギョレンオイル大漁」 発売から 50 年



「ギョレンオイル大漁」は、漁船で使用される機械とその使用条件を考慮して定めた規格に合わせて開発した、漁船のためのエンジンオイルです。

ギョレンオイル
大漁
シリーズ

大漁スーパー

中・小型漁船の高速エンジン用（SAE30、40、15W-40）

大漁ロイヤル

大・中型漁船の中・低速エンジンオイル（SAE30、40）

大漁LL

大・中型漁船の長期航海用（30、40）
小型高出力エンジン用のロングライフオイル（15W-40）

大漁ハイドロスーパー

耐荷重性に優れた漁船用油圧作動油（ISO VG32、46）

大漁ベストクール

陸上冷凍装置から遠洋漁業の超低温冷凍装置まで
（ISO VG32、46）

漁協は、JFグループへ。

JFブランド商品

“ギョレンオイル大漁シリーズ”

漁船用エンジンのための最高級オイル。

〈エンジンオイル〉

大漁スーパー
大漁ロイヤル
大漁LL

〈油圧作動オイル〉

大漁ハイドロスーパー

〈冷凍機オイル〉

大漁ベストクール



海には、JFマークの商品を。

JF

JFグループ

問い合わせ先
問い合わせ先

JF全漁連 購買事業部 石油第2課
JF長崎漁連 購買課

TEL 03-6222-1323
TEL 095-829-2419

